

M&A アドバイザーの眼



Robert Satow

ロバート・ザトウ

リンカーン・インターナショナル
マネージング・ダイレクター
(ニューヨークオフィス)

(Website : www.lincolninternational.com)

ここに来て自動車部品業界における中規模M&A案件が急速に増えているが、弊社が欧米自動車部品会社の売却を行う場合に重要なポイントになるのがアジア、特に中国企業の買い意欲である。中国国内市場が引き続き高い成長を維持する中で、中国の部品メーカーは豊富なキャパシティを生かしたM&Aの機会を狙っている。急速な成長で世界最大の自動車市場となった中国は今後も世界の自動車業界M&Aにおいて重要な役割を果たしていくだろう。

中国はまだ世界の資本市場が低迷していた2009年に一足早く業績不振企業の買収を中心に海外の自動車メーカー又は部品メーカーに対するM&Aを再開した。自動車業界では中国企業による海外企業買収案件が05年の5件をピークに、06、08年にかけて低迷していたが、過去18カ月は9件、金額ベース30億と大幅に復調してきている。この中には中国自動車メーカーによる史上最大の買収案件となった吉利汽車によるボルボの買収(10年3月、18億)のような著名案件が含まれている。

中国の自動車メーカーは日本や韓国の自動車メーカーが歩んできたように、海外市場での販売の拡大を目指している。しかし、業歴の浅さや経験の不足から、欧米市場の安全基準を満たすのに大変な苦勞を強いられている。その面から吉利汽車がボルボの買収によって長年に亘り世界の自動車市場で認められているエンジンリアリングやR&Dの人

材を獲得したことは画期的なことだ。また世界で高く認知されたボルボブランドは今後中国国内での成長が大きく期待できる。

部品業界においても先月中国メーカーが絡む注目すべき案件が発表された。北京に本拠を置く自動車部品メーカーであるテンポインターナショナルと中国政府系の投資会社であるイータウンが共同出資するパシフィックセンチュリーモーターズによるGMのステアリング部門ネクスティアオートモーティブの買収案件である(推定買収総額4億5千万)。同社売却のオークションでは弊社が把握するだけでもパシフィックセンチュリーの他に中国2社、韓国1社が最終選考に残っており、いずれも戦略的観点から極めて

まだ初期段階の中国企業によるM&A

高い関心を示していた。アジア勢が高い関心を示した理由は、ネクスティアが持つ電動パワーステアリング技術の取り込みと中国市場における成長余地である。中国の部品メーカーは同国OEMとのリレーションシップをフルに活用することで、ネクスティアの中国における成長実現を強力にバックアップできる分、高い価値を提示できたと考

えることが出来る。弊社では中国自動車関連企業による海外企業の買収はまだ初期段階にあると見ている。中国自動車市場の規模と関連各社の旺盛な成長意欲を鑑みれば、年間5件というペースはまだまだ少なすぎるくらいだ。中国による自動車関連企業の買収は、資本市場または政府系ファンドからの資金調達や歴史的に見ればまだ低水準にあるバリエーションに後押しされ、これから大きく伸びるだろう。また、中国にとって政治的要因は引き続き懸案事項となるが、08年、09年の改正を経て中国における規制環境も欧米並みになっており、欧米当局によるM&A案件の差し止めリスクは減少するものと思われる。

リンカーン・インターナショナル 旧長銀米岡M&A子会社を母体に設立されたM&A専門投資銀行。シカゴ、フランクフルト、東京を含む10拠点で中規模M&Aの助言業務を展開。

(次回は8月30日付に掲載します)